

かまいしキッチンカープロジェクト (K2CP)

株式会社釜石プラットフォーム

事業概要

東日本大震災による被災飲食事業者の自立的復興と起業促進への支援を目指し、官民連携のもと「かまいしキッチンカープロジェクト(K2CP)」に取り組んだ。社会貢献を最優先とする非営利型株式会社 プラットフォームサービス(株)の発案を受けて、釜石市・(公財)釜石大槌地域産業育成センター(以下 育成センター)・ロータリークラブ・青年会議所・業界団体が協力してスタートしたプロジェクトである。本プロジェクトが成果をあげた最大の要因は発災から約720時間でプロジェクトの大枠を決め、約2000時間(87日目)で経済活動をスタートさせた事である。混迷する中、釜石市民をはじめ災害復旧に取り組むボランティアを勇気づけた(図1参照)。同年8月には公募で集まった6事業者で本格スタートするが、その選定において、被災事業者に限定しなかったことはその後の発展に大きく寄与することになる(図2参照)。大町ほほえむスクエア(図3)は、キッチンカーの常設営業拠点として中心市街地の一角に2013年6月に誕生した施設である。自主企画のパブリックビューイングやLIVEを開催し、市民の交流の場として、中心市街地復興の起爆剤となった(図4)。しかしながら、行政による復興事業が進みイオンの出店を始め飲食店の整備がなされたので、2017年4月で役目を終えた。K2CP発足から4年後の2014年までは育成センターが事業主体となっていたが、2015年からは(株)釜石プラットフォームが運営を引き継いでいる。民間にその運営が移譲されたことから、市域の枠を超えて地域間交流連携が展開されている。現在では釜石市内で3台が営業するとともに、千代田フードバレーネットワーク参加自治体のまちづくりや販路開拓にも利用されている。さらに2016年に発生した熊本地震では、釜石市からの災害支援車両として1年にわたり熊本県益城町を中心に現地で活動をした。また新たに、大槌キッチンカープロジェクト(岩手県大槌町)にも参画している。2011年に始まったK2CPには2016年までに20事業者が参画し、そのうちの7割にあたる14事業者が実店舗を開店させた。さらに現在も8台が稼働中である(2017年10月現在)。



図5	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
被災者	5	5	2	1	0	0	1
非被災者	1	4	10	8	10	8	8
公共団体	0	0	1	0	2	2	3
実店舗へのステップアップツールとして活用。被災飲食店救済から賑わい・起業家創出へ推移している。							
釜石市内	6	6	8	6	4	5	3
市外	0	0	2	4	4	2	3
県外	0	0	0	0	3	4	3
官から民へ緩やかに運営を移譲することにより、志とノウハウは他地域へと展開している。							
卒業者 (実店舗)	1 (1)	2 (2)	4 (0)	5 (4)	3 (3)	5 (4)	稼働中 8

受賞

2013年 グッドデザイン賞 地域活性化PJ【おおまちほほえむスクエア】

2014年 共同通信 地域再生大賞優秀賞【キッチンカープロジェクト】

事例掲載

2014年 農林水産省 食料・農業・農村白書

2015年～ 内閣官房 国土強靱化民間事例集

受託事業

2013年 国交省「新しい公共の担い手による非資金的支援モデル事業」

2014年 復興庁「新しい東北先導モデル事業」

2015年 復興庁「新しい東北先導モデル事業」

